

通貨で支払いを受けた場合は？

慣れないうちは取引があったとき、どんな勘定科目で処理すればよいのか、悩むケースもあるでしょう。そうした勘定科目の取扱いについて、新人さんと一緒に、事例をもとに学んでいきましょう。



新人さん：金種表を使って、手提げ金庫の中の現金の金額を確認しました。

先輩：ありがとう。現金出納帳の残高とも照合したかな？

新人さん：はい。しかし、実際の現金の金額と現金出納帳の残高が合わないことなど、減多にないのですから、効率化のために、週に1回とか合わせればよいのではないですか？

先輩：そういうわけにはいかないよ。実際の現金と現金出納帳の残高が合うことによって、その日の経理の仕事が終わるようなものだ。経理の基本だよ。

●解説

「現金」とは、代金の支払い等のために保有する①通貨（紙幣や硬貨）と、②いつでも金融機関などで換金できる通貨代用証券を処理する勘定科目です。

①通貨には、国内通貨のほか、外国通貨も含まれます。

また、②通貨代用証券には、他人振出の小切手、送金小切手、送金為替手形、預金手形、郵便為替証書、振替貯金払出証書、期限日到来公社債利札等があります。

「現金」の勘定科目で処理してはいけないものには、次のようなものがあります。

- ・収入印紙や切手は、通貨と同様の管理を必要としますが、換金を目的としたものではありませんので、期末残高は「貯蔵品」として処理します。
- ・先日付小切手は、期限まで現金化できませんので、「受取手形」で処理します。
- ・自己振出の小切手は、「当座預金」の減少として処理します。

手許現金の実際の金額と帳簿上の残高が一致しない場合は、その原因を究明します。その間、一時的に不一致の額を「現金過不足」の勘定科目で処理をして、原因が判明した場合は適切な勘定科目に振り替えます。期末になっても、その原因が判明しない場合は「雑収入」または「雑損失」の勘定科目に振り替えます。

ケース1

一般的な取引の場合

得意先に商品110,000円（税込）を販売し、代金を現金で受け取った。

【借方】	現金	110,000	【貸方】	売上	100,000
				仮受消費税等	10,000

ケース2

現金過不足が生じた場合

・手許現金の実在高は30,000円であったが、帳簿上の残高は50,000円であった。

【借方】	現金過不足	20,000	【貸方】	現金	20,000
-------------	-------	--------	-------------	----	--------

・上記の現金過不足のうち、11,000円は交通費（税込）の記帳漏れであった。

【借方】	交通費	10,000	【貸方】	現金過不足	11,000
	仮払消費税等	1,000			

・期末になっても、上記の残りの現金過不足の原因が判明しなかった。

【借方】	雑損失	9,000	【貸方】	現金過不足	9,000
-------------	-----	-------	-------------	-------	-------